

オレの家は金持ちだ
悪さしたって
金で何でも解決してきた

オレのママも
村の若い男達を
金使って遊びまくってる

村のみんなそんな
オレら親子を嫌っていた
気にしてないけどな

「海はいいわね
ほら
パラソル用意しなさい」

「奥様
向こうに荷物を置いていきますので
今から取ってまいります」

「何やっているのよ
暑いだよ
早く持ってきてきなさい」

「ちょっとこの皮みたいにな
るんでいるんじゃないの？」
「す…すいません！」

ニギの
ニギ♡

日常

最近のママは
近所に住む〇〇がお気に入りで
よく部屋に連れ込んでいます

今日も〇〇を連れて来た

〇〇
今夜は街の宿に泊まりなさい

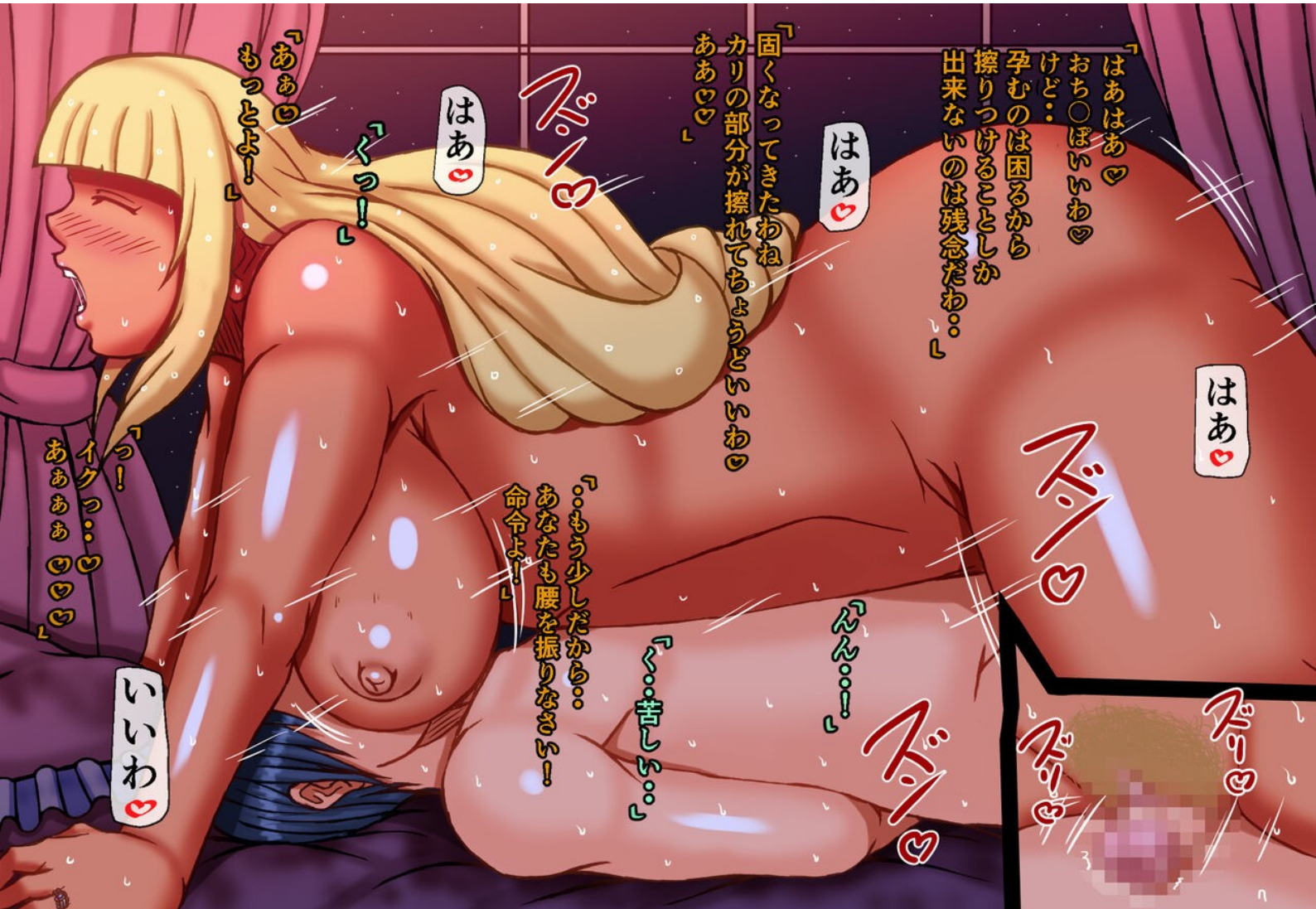
「えー
めんどくせえよ」

「これから
彼と楽しむのよ
お金あげるからさっさとしゃべりなさい」

「ちや
ちや」

「無駄遣いしちやダメよ」

オレは小遣いが貰えるなら
ママが何してしようが
どーでもよかった



「はあはあ♡
おち○ぼろらわ♡
けど:
孕むのは困るから
擦りつけることしか
出来ないのは残念だわ…」

「固くなってきたわね
カリの部分が擦れてちようどいわ♡
ああ♡」

「はあ♡」

「ああ♡
もっとうっ!」

「はあ♡」

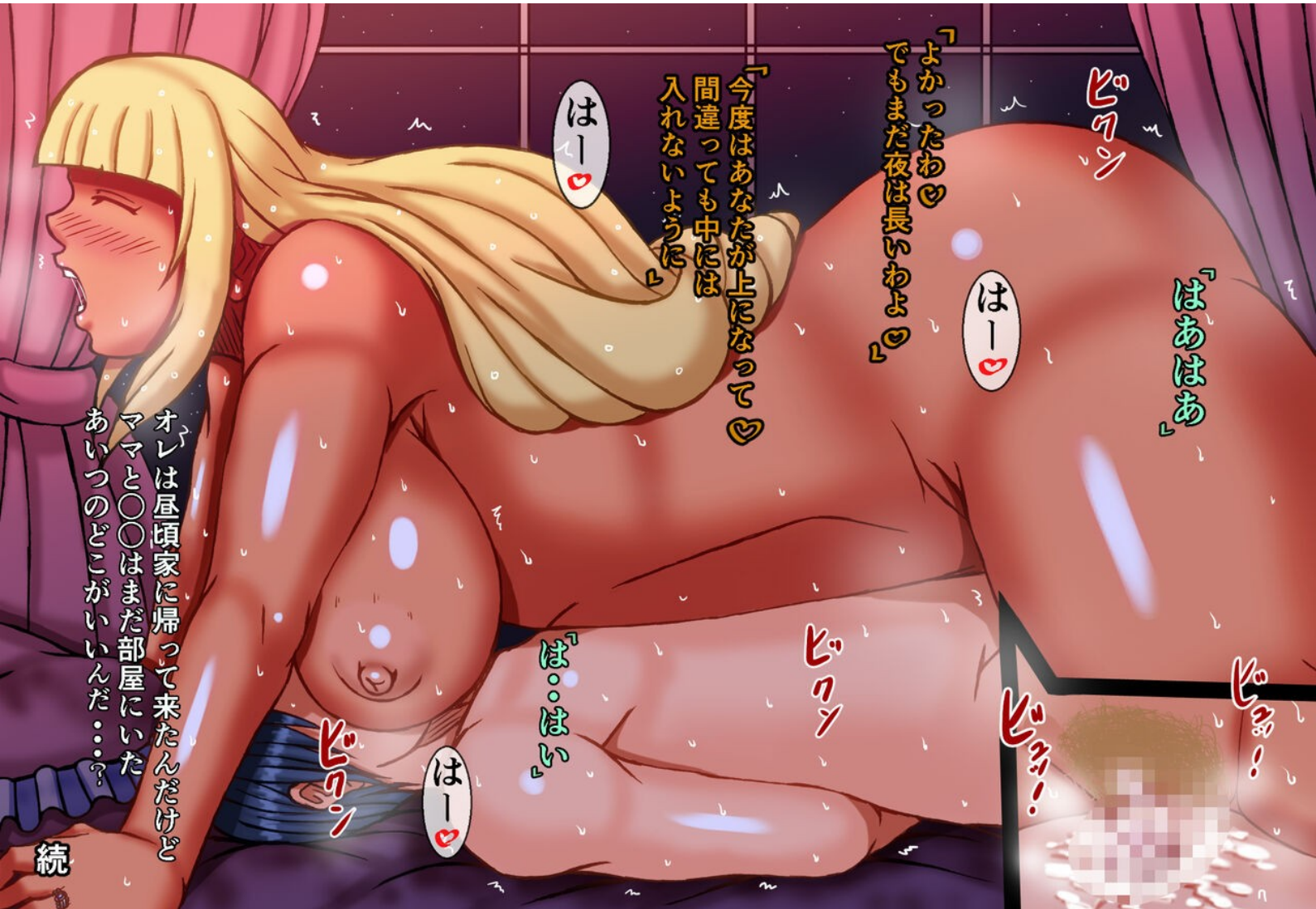
「…もう少しだから…
あなたも腰を振りなさい!
命令よ!」

「んん…!」

「ん…#」

「いいわ♡」

「っ!
イクっ…♡
ああああ♡♡♡」



ピクン

「はあはあ」

はー♡

「よかったわ♡
でもまだ夜は長いわよ♡」

「今度はあなたが上になって♡
間違っても中には
入れないように」

はー♡

ピクン

「はっはっは」

はー♡

ピクン

「オレは昼頃家に帰って来たんだけど
ママと○○はまだ部屋にいた
あいつのどろろがいいんだ……」

続

ある日の夜
今日も遊び疲れたから
さっさとベッドに入った

ん♡

しばらくすると何者かが
部屋に入ってきてオレを鈍器の
ようなもので殴り
縛りあげ目隠しされた

気づいた時はオレは
馬小屋に寝かされていた

仕返し

んん♡

ジュポ♡

ジュポ♡

ジュポ♡

そこで見た見た光景は信じられなかった

んん♡

ママは目隠しをし手首を縛られ
○○のち○○ぽをしゃぶっていた

「やっと起きたか△△

おい

おばさん!

もつと上手くしゃぶれよ」

ん

「うっめんふあい」

ママは家のプールに入っている時に
拉致られたのか水着姿だった

「おまえら親子前々から
気に入らなかつたんだ
同じ目にあわせてやる」

んん

ジッポ

ババア

人にやらせてるくせに
自分でやるのは下手くそだな」

ジッポ

ジッポ

「...」

んん

そんなこと言われても
ママは〇〇に奉仕していた

うう…！

ぐぐぐ…！

しほはくすおんこ
○○は身震くを
しゃぶりしてんやいの口に出した

急ぎだったので
ママは離れようとしたが
強引に喉奥までチ○コ突っ込まれ
たっぶり出されていた

ふー♡

ふー♡

ふー♡

フフフ…

んんんっ！

ピクン

ピクン

「いつも僕達をオモチャにして
無理やり出させた
お婆さんの好きなザーメンだぞ」

「ほらオバサンの好きなち○こ
いれてやるよ」

「やだ：
ちよつとやめなさい！」

「△△
お前のママ
妊娠が怖くて
マンズリまでしかさせなかつたんだぞ
男遊びしてるくせにw」

「僕初めてS○Xするから
中に出しちゃうかもね
孕んだらゴメンなw」

そう言っ
て
○こはわざわざオレの目の前に来て
見せつけるようにママのアソコにもち○こを
挿入した

ん
ん
ん

嫌あ！
抜きなさい！

「やばい入れただけで
出ちやいそう…」

ママのアソコはそんな気持ちいいのか
○○はイクのを我慢して、しばらく動かなかった

「ほんと
やめなさい！」

あん♡

アッ♡

アッ♡

「うるさいオバサンだな
犯しまくってやる！
○○見てろよ」

はあ♡

ズ♡

ズ♡

はあ♡

ズ♡

○○は上手く腰を振れなくて
何度かアソコから抜けたりしていたが
無理やり入れてママを犯した

〇〇は激しく腰を振ったけど
1分も経たずにイッてた

「うう…!
くそ…!

「あ…ちよ…やだ!
出てるじゃない!
早く抜いでえ!

「はあはあ
やったぞ…!

はあ♡

「おい△△
おまえ我慢汁出して勃起してるじゃん
ママが犯されているの見て興奮してんのか?
変態だなW

はあ♡

なぜか体が反応してしまった…

はあ♡

ブッブッ!

ビョウ

ビョウ

ビョウ

ビョウ

ズチュ♡

ズチュ♡

その後長い間

〇〇は色々と体位を変えながらママを犯し続けた…

「はああ♡

もうダメえ♡

おかしくなっちゃう♡♡

イク♡

イクッちやう♡♡

ダメエ♡

「オバサンそんなに気持ちいいの？
いい声で鳴くじゃん♡」

んああ♡

あ♡

あんなに嫌がっていたママなのに
SOXしていく内に
次第に喘ぎ声に変わっていった

ビュッッッ!

息子が近くで見ているのに
ママは卑猥な言葉を言って乱れていた

「あはあ♡
もっとおマ○コ突いて♡
お願い滅茶苦茶にしてえ♡
オチ○チ○頂戴♡」

ああああ♡♡♡

「そんなエロいこと言っておばさん

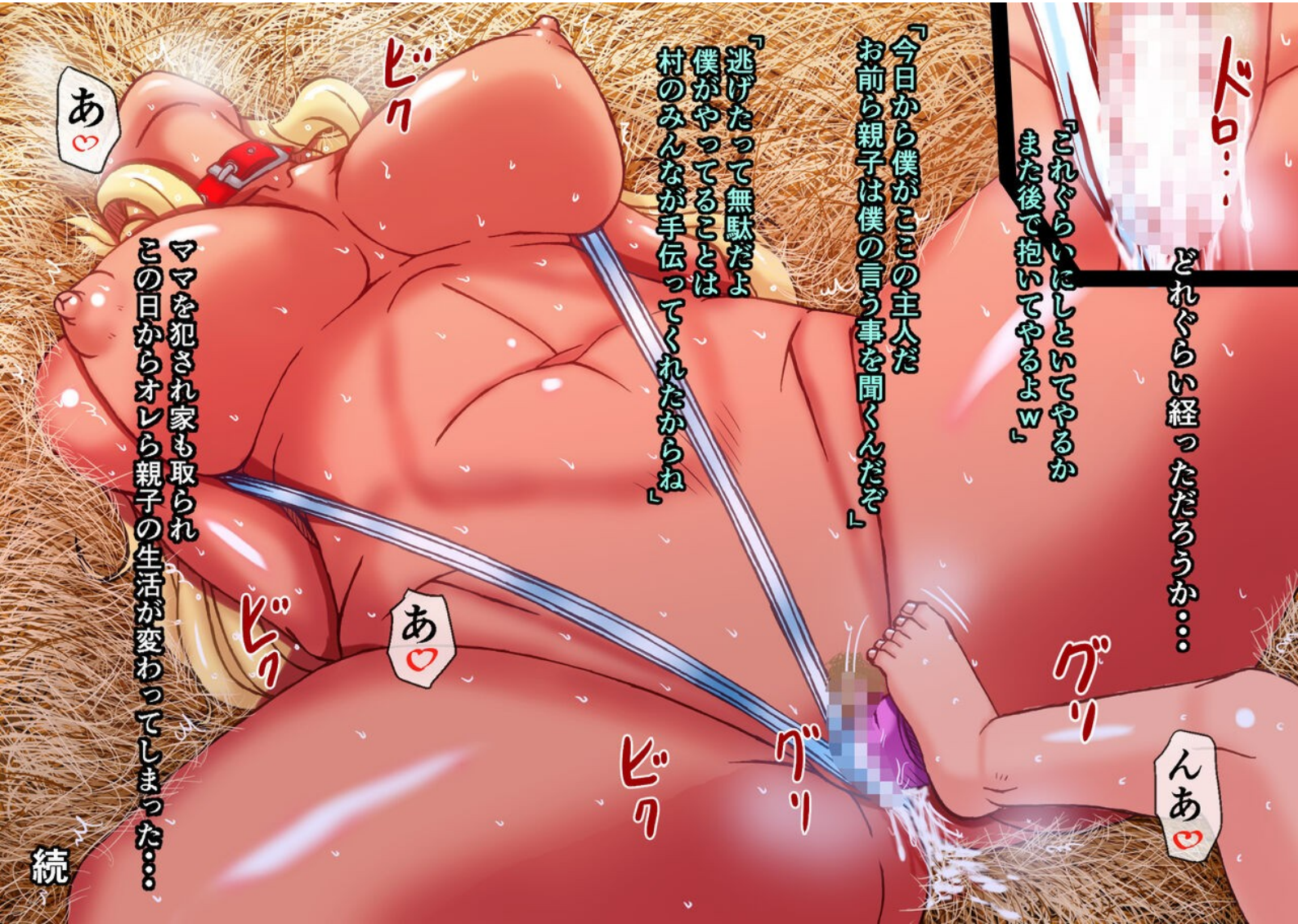
△△が見てるぞ」

「そんなの気にしなくていいわ。もう気持ちイイの頭が真っ白になるとにかく止めなさい」

「だってさW」

S○Xをやりすぎて
もうオレの知ってるママじゃなくなっちゃった





どれぐらい経っただろうか...

「これぐらいにしてやるか
また後で抱いてやるよw」

「今日から僕がこの主人だ
お前ら親子は僕の言う事を聞くんだぞ」

「逃げたって無駄だよ
僕がやることは
村のみんなが手伝ってくれたからね」

ママを犯され家も取られ
この日からオレら親子の生活が変わってしまった...

あ♡

あ♡

んあ♡

続

〇〇に仕返しされたオレとママは
全裸のまま〇〇と同じような目にあわされた

「おじさん

「一晚このおばさん貸すよ？
やりたくない？
安くするよ」

「いいねえ

「前々からやりてえと思ってたんだ
いつも露出の高い格好しやがって
用心棒雇ってたから手出せなかったけどよ」

「じゃあオレはこのぽっちゃりの息子を貰おうか」

「毎度」

「部屋連れて行く前に
一発抜くか

「おじさんのチ〇コによがる
お前のママの姿見とけよ」

んん♡

ちゅ♡

「そんなに嫌がるなよ
奥さん♡」

ちゅ♡

んぐ♡

キスで満足したおっさんは
次にママの体を弄り始めた

ママは顔を背けていたけど
おっさんは強引に引き寄せ
ママにキスをした

「はあはあ
たまんねえな
奥さんの体を好きにできるなんて」

あふ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

「ほらもっと足を開け
息子に見せつけてやるんだよ」

くっ♡

グチュ♡

グチュ♡

グチュ♡

「ボウズ
お前のママ
おじさんのチン○ポ欲しくて
こんなにマ○汁垂らしているぞ
ほんといやらしいママさんだ♡」

んふ♡

ママはおっさんにこんなふうに使われていた

びゅ♡

「やばい
マ○コがオレのチ○ポに
吸い付いてやがるW」

ズ
チ
ュ
♡

んあ♡

おっさんは足を持ち上げオレに
結合部を見せつけるように
ママを犯していた

あはあ♡

「はあはあ
まずは一発目だ
受け止めるよ！」

「ボウズ
お前のママ締りが良くて
最高だW」

「だめえ！」

発射寸前になると
おっさんの腰の動きが早くなり
そしてママの中で果てた……

ズ
チ
ュ
♡

あん♡

ぬ・抜いて！」

ズ
チ
ュ
♡

「あああああ…」

フ
フ
フ
フ
フ

はー♡

ママのアソコからは
おっさんのザーメンが溢れていた

はー♡

はー♡

「うぐぐ…
軽く抜くつもりが
つい本気になっちゃまった…」

ビュ
ビュ
ビュ
ビュ
ビュ

ビ
ビ
ビ
ビ
ビ

「ばあはあ
奥さん
今夜は寝かさないぞ
子供作ってやるよ」

いった後もしばらく繋がっていて
ゆっくりと抜き差しをしザーメンを
奥まで流し込んでいた

ビ
ビ
ビ
ビ
ビ

ビ
ビ
ビ
ビ
ビ

イク♡

許して♡

壁が薄いのかしばらくすると肉と肉のぶつかる音とそれに合わせて喘ぎ声が聞こえてきた

ああ♡

はん♡

「さつきより反応がいいじゃないかな
やっぱ二人きりじゃないとな」

おっさんはオレの前でママを抱いだ後ぐったりしたママを隣の部屋に連れて行き続きを始めた

「ちが。ああ♡♡」



ああああ♡♡♡

「若いのより使い込まれたち○ぽの方がいいだろ?」

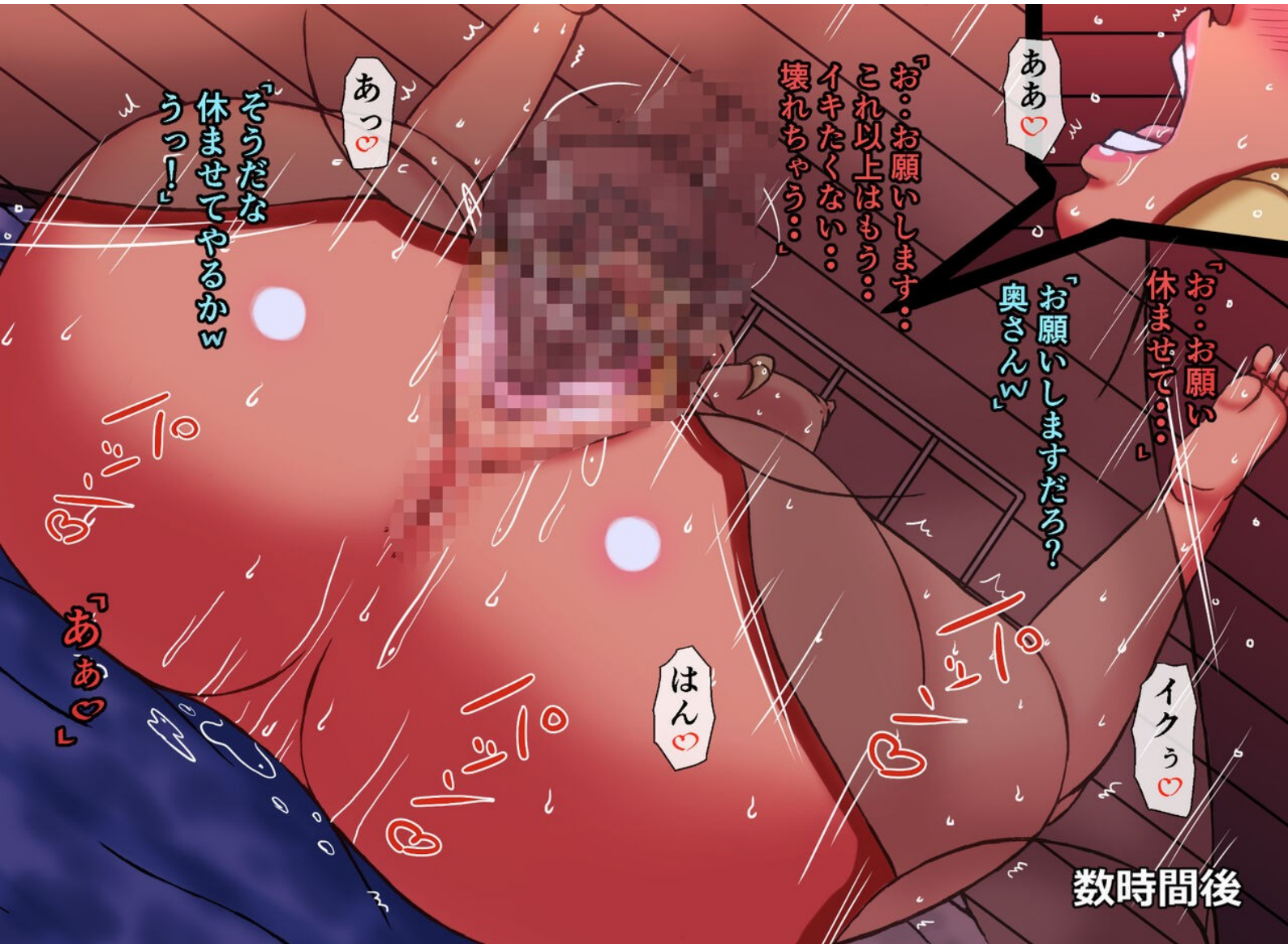
「やだ…これ以上激しくしなすで…」

「おらいケよ! 奥さん!」

「んあああ♡♡♡
らめえ♡♡♡」

ママの喘ぎ声が一段と大きくなり
おっさんに激しく攻められているのがわかった…





ああ♡

「お：お願いします…
これ以上はもう…
イキたくない…
壊れちゃう…」

「お：お願い
休ませて…」
「お願いしますだろ？
奥さん♡」

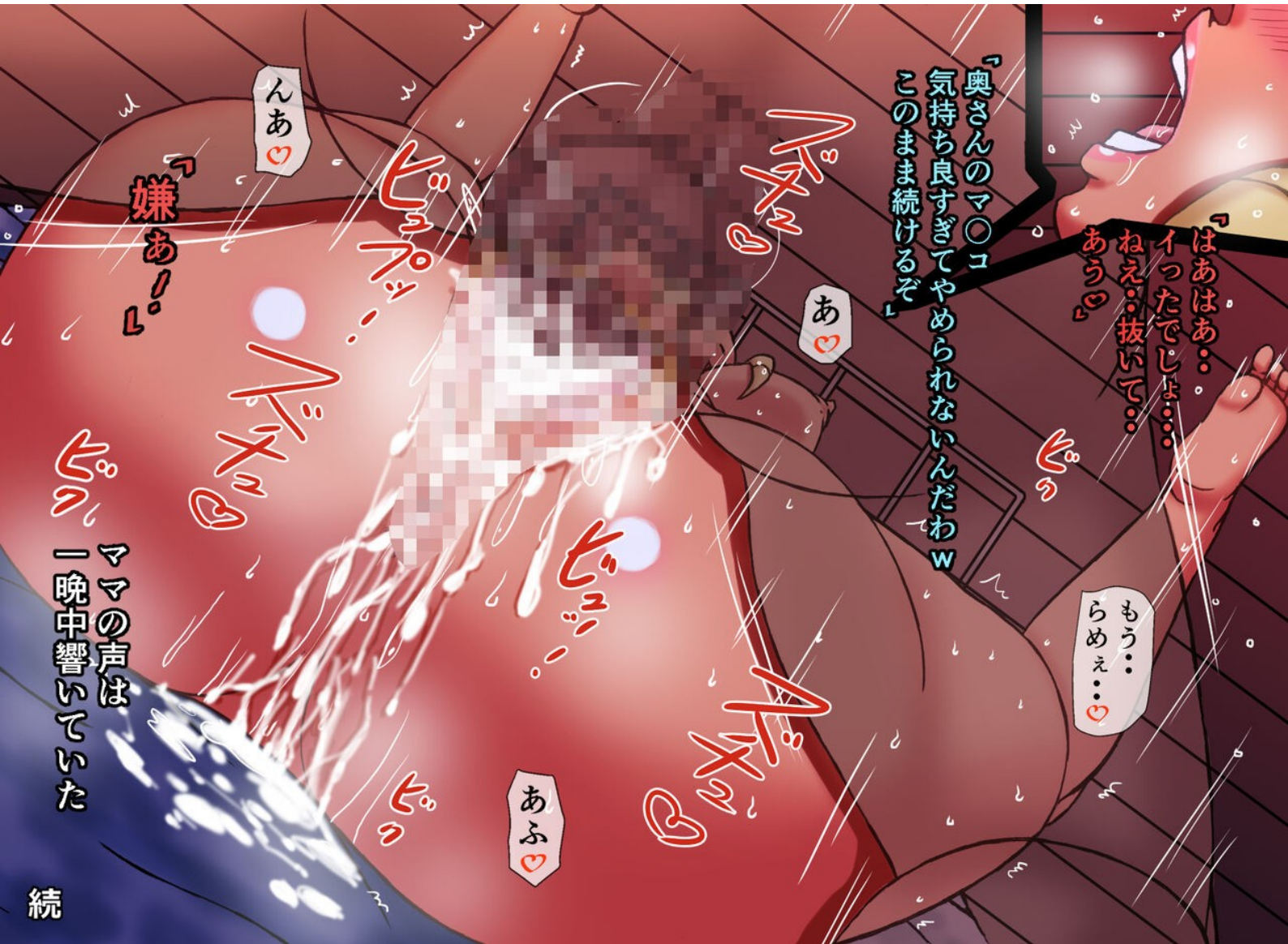
「あっ♡
そうだな
休ませてやるかw
うっ！」

はん♡

イクう♡

「ああ♡」

数時間後



「奥さんのマ○コ
気持ち良すぎてやめられないんだわ
このまま続けるぞ」

「はあはあ……
イっただじよ……
ねえ…抜いて……
あう」

もう……
らめえ……

んあ♡

嫌あ!

あ♡

あふ♡

ママの声は
一晩中響いていた

続

〇〇の奴隷になってから
オレは村の連中に
色々な仕事をやらされ
こき使われている

一方ママは
毎晩〇〇の性欲処理を
させられていた

ある日
今日も仕事に行く前に
家にいつもいるママがいないことに
気づいた

「はあはあ
たまんねーわ」

「こんな大きいの
触ってみたかったんだ」

「お前のママは
友達の家に連れて行ったよ
2・3日で戻ってくる」

「みんな童貞でやらせてくれって
頼むから今頃は
やりまくってんじゃないか？」

「ご主人様
ママがいないんですけど…」

「待って！
せめて順番に…」

「早くやるうぜ」

ママの用事

三日後
ママを連れて帰るのに
同行させられた

ん

ママのいる古い家に入ると
ザ○メンのイカ臭い匂いが
充滿していた

隣の部屋に行くと
ザ○メンだらけの中
ママは複数の若い男達に犯されていた

「オバサンを返してもらいたいよ」

んー

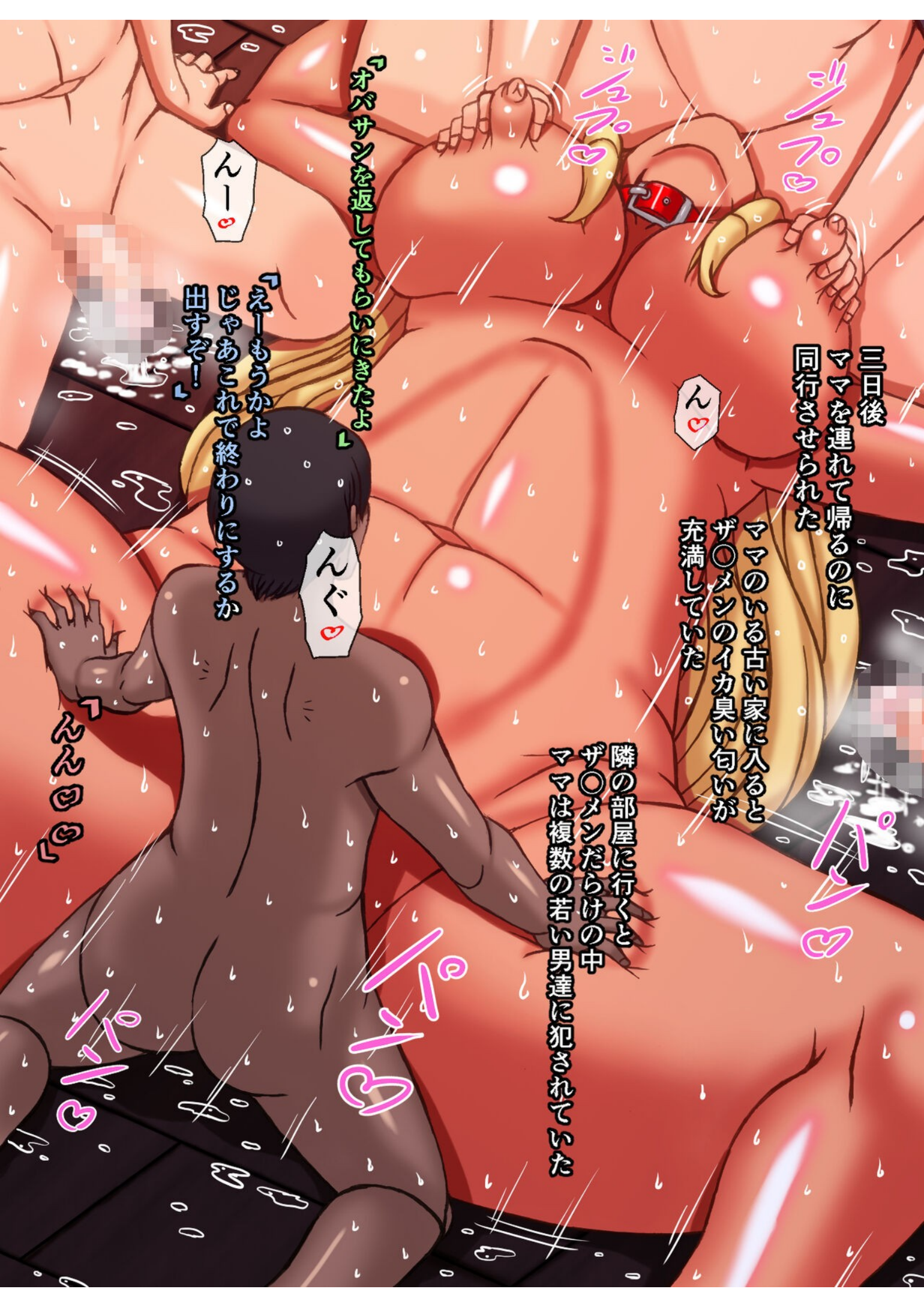
「えーもうかよ
じゃあこれで終わりにするか
出すぞー！」

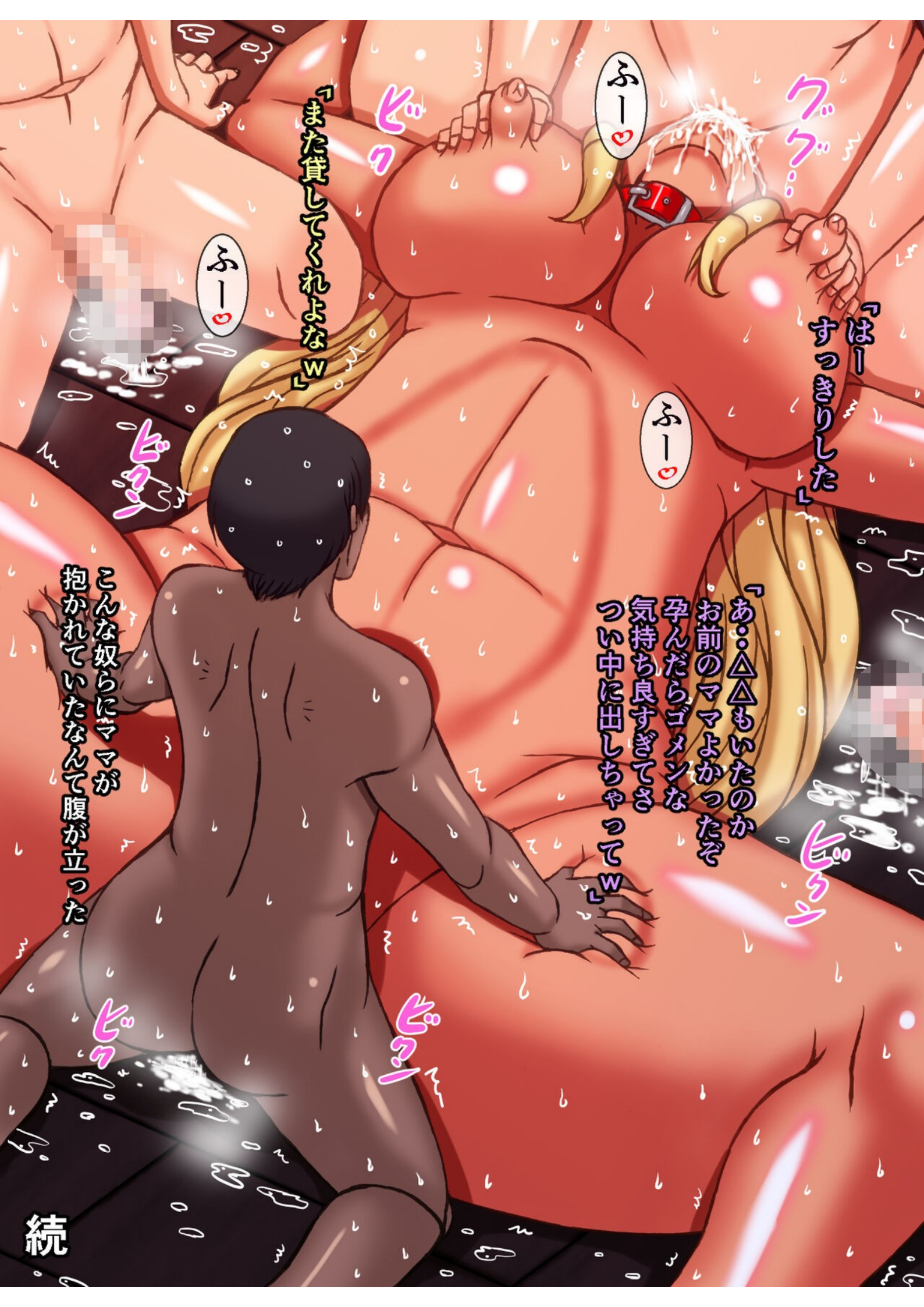
んぐ

んんんん

んんんん

んんんん





「また貸してくれよなw」

ふー♡

ググ

ふー♡

「はー
すっぎりした」

ふー♡

「あ：△△もいたのか
お前のママよかったぞ
孕んだらゴメンな
気持ち良すぎてさ
つい中に出しちゃってw」

こんな奴らにママが
抱かれていたなんて腹が立った

続

奴隷になって半年経った
ある日の夜

オレは〇〇と呼ばれ
部屋に向かった

部屋に入ると
ママ達がS-Xしている最中だった

ママはもうすっかり
〇〇の女になっている

〇〇がやりたくなったら
場所や時間なんて関係なくやる
これがほぼ毎日...

「ご主人様
なんの御用ですか?」

ああ♡

「ちょっと待ち
もう少しだから...」

「え?
いつちやうの?
だったら正常位でお願い♡」

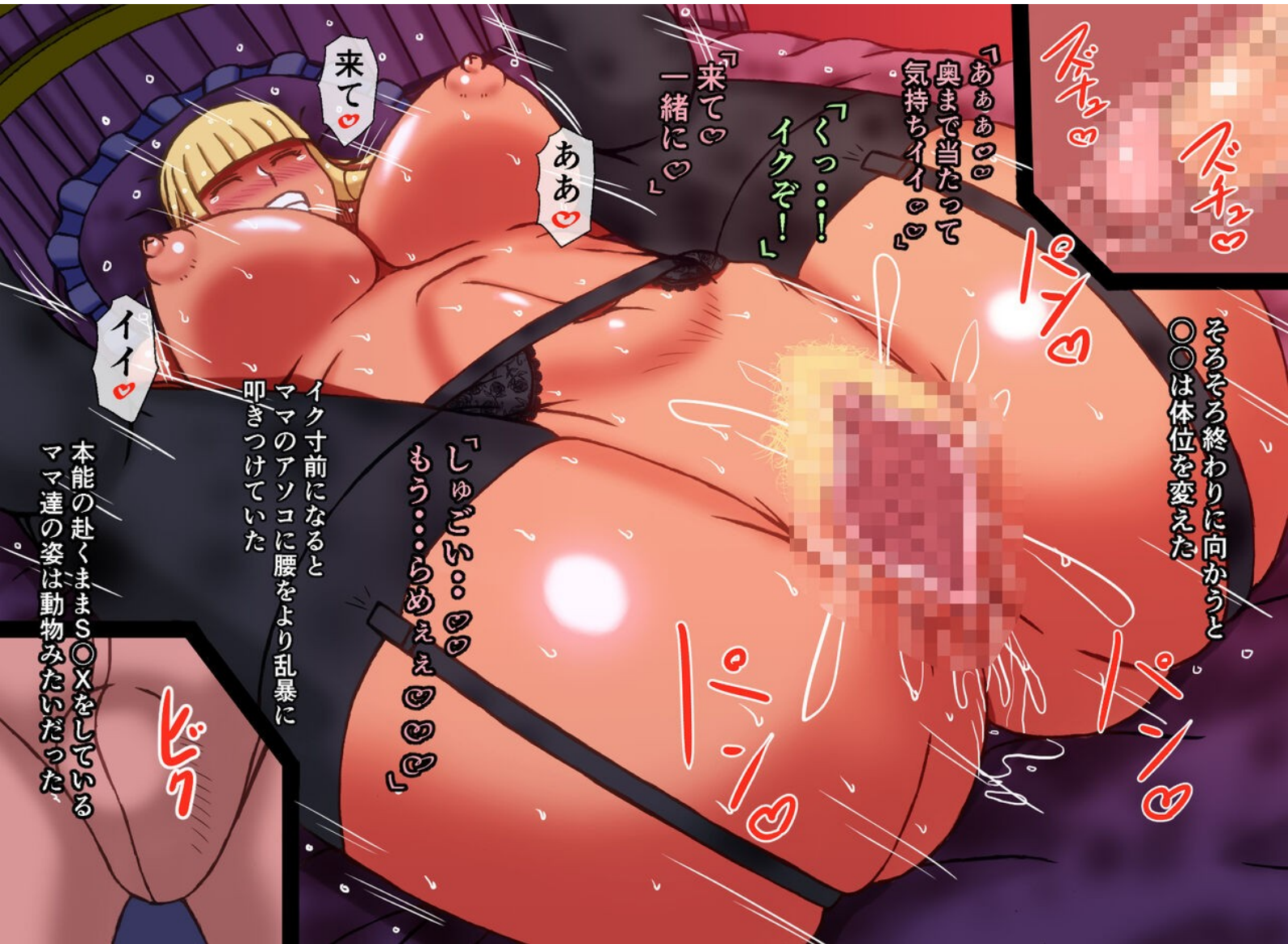
もっと♡

あん♡

「ご主人様の顔見ながら
イキたいの♡」

あー♡

告白



だっ♡

だっ♡

そろそろ終わりに向かうと
○○は体位を変えた

「あああ○○
奥まで当たって
気持ちいい♡」

「くっ…!!
イクぞ!」

「来て♡
一緒に♡」

「ああ♡」

「来て♡」

「んんん○○○○
もう…らめえ○○○○」

イク寸前になると
ママのアソコに腰をより乱暴に
叩きつけていた

「いい♡」

本能の赴くままS○Xをしている
ママ達の姿は動物みたいだった

ビク

事が終わり

「話がまだだったね
ほら言ってやりなよ」

「ええ♡
ママご主人様の赤ちゃん
出来ちゃったわ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「それでね
結婚するの♡
だからパパの形見の指輪
邪魔になったから捨てちゃったわ♡」

「はあ♡」

「ええ？
ええ？」

色々聞かされあまりのことだ
オレは頭が回らなかった...





「そういうことだよw
僕が新しいパパだ
僕は君が嫌いだから
出てってもらおうか」

「ごめんねw
ママはお腹の赤ちゃんと
三人で暮らすわw」

「またやりたくなっちゃったよw」

「さっさと
たぐっさん愛してね
ズグw」

はあ♡

はあ♡

はあ♡

オレがまさかママに
捨てられるとは思わなかった。。

終



